

今月の一枚



年末大掃除（12月29日、順慶寺本堂前にて）

◆◆ 年末の大掃除 ◆◆

順慶寺には、毎週木曜日に任意で集まっている、掃除当番がある。この方々を中心に声をかけあって、毎年年末に大掃除がなされている。このごろは、総代も諸堂のすす払いをするために集まるようになって、去年はほんの一時期コロナ禍が和らいだときに実施できた。

◆ 自らを省みることの出来ないもの ◆

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より、

「愚か者は悪いことを行っても、その報いの現れないあいだは、それを蜜のように思う。」

しかしその罪の報いの現れたときには、愚か者は苦悩を受ける」(第六十九偈)

です。今月のところは、①ウッパランナー(蓮華色)と呼ばれる、コーサラ国・舎衛城の長者の娘にまつわる伝説からの出典です。

ウッパランナーは、その名の如く幼くして青蓮華のように美しく、多くの人から注目されました。

年頃になり、あちこちの王や長者の息子たちが、その美貌に魅せられて求婚に來ましたが、父親である長者は、どうしても娘を嫁に差し出すことができませんでした。そこで、長者は、娘を信頼できる釈尊の元で出家させ、比丘尼(女性の出家僧)となることを勧め、ウッパランナーも比丘尼となることを快く受け入れました。しかし、出家した比丘(男性の出家僧)の

今月の釈尊の言葉

悪いことをしても
報いが現れなければ
それを蜜とする凡夫

◆ダンマパダ(法句経)

第六十九偈より

釈尊が祇園精舎で、男女の問題で大騒ぎになったときの戒めのお言葉です。



若院のテーマカット NO.34



中には、ウッパランナーの美しさに魅せられたものも多くありました。ある時、ウッパランナーが、アングヴァナという森で修行をして、夜に床につくと、隠れていた比丘が、カづくて思いを遂げて去っていく事件が起こりました。翌日、騒ぎを聞いた釈尊が、その経緯を聞くと、修行に動しむ多くの比丘たちに向かって、「比丘たちよ、比丘、比丘尼、在家信者、在家信女のうち誰でも、愚かな者が悪事を行うのは、蜜や砂糖など何か甘い味のものを食べながら、身の毛を逆立てながら大喜びするようなものです」

と言ひ、悪事をして自らを省みない者を厳しく戒め、力をこめて説法されたそうです。

以降、仏弟子の教団も、比丘と比丘尼は別々に修行することとなりました。

◇心の奥底に残る種子◇

「なんじに いずるものは なんじにかえる」

これは、中国の孟子の言葉です。自分のしたことは、必ず自分に返ってくる。良いことも自分に返ってくるが、悪いことも返ってくる。良い意味では「情けは人のためならず」（情けは巡って自らにもどる）とも言えますし、悪い意味では、「身から出た錆」とも言います。仏教的に言えば、自業自得（じごうじとく）ということでしょうか。

私たちの浅はかなところは、結果が出るまでなかなかその意味を考えない

①【ウツパランナー】

ウツパランとは蓮華のことで、ヴァンナーとは色のことで、蓮華色と呼ばれる、女性比丘僧。コーサラ国・舎衛城の長者の娘。容姿端麗であったため、教団を男女に分けて修行をさせるきっかけをつくった。女性教団は、釈迦の元妻であるヤソダラー、大迦葉のかつての妻であるカピラーニ、ピンビサーラ王の妃であったケー

こと。例えば、毎日車で通勤している人が、時間に追われて一時停止を行わず事故。偶然と思いきや、実はこれまでの積み重ねで起こったのでした。

仏教には、唯識（ゆいしき）という深い心の世界を求め尽くした学問があります。その中に、現行薫種子（げんぎょうくんしゅうじ）という言葉があります。これは、私たちが今行っている行為（自分の行為だけでなく、受けた行為も差す）が、香りが染みつくように心の深いところに種子として残る。

その種子は、子供のころからの躰や言葉、ちよつとした行為までが心の奥底に留まるとします。そのため、初対面の人でも好き嫌いが出るわけです。陰口、内緒話、…、蜜となることは沢山ですが、それらがすべて自らの心の奥底に種として残り、ご縁がくると結果をもたらすのだと知ると、自らの行いを正すきっかけになります。

マ、ウツパランヴァンナーなど多くの尼僧ができた。

②【唯識】

一切の対象は心の本体である識によって現し出されたものであり、識以外に実在するものはないということ。また、この識も誤った分別をするものすぎず、それ自体存在しえないことを含む。法相宗の根本教義。仏教の一大学派。（デジタル大辞泉より）



《第二十回 報恩講の儀式化》

大学の講義で、本来報恩講は報恩謝徳・懺悔回心の談合の場であったと習いました。

しかし今日の報恩講は、お経をあげ、法話を聞く場になっており、私たちが念仏の有難さを共有する場という意識が

念仏を欲ぶ人

妙好人の世界

[第113回]

《味おうてくれ》
ものだね きち べ え
物種 吉兵衛 (21)

行雑修とは、浄土往生のための行ではないという意味を表すもので、かなりの言い方です。それに加えて、その人は、「わしはこの通りだ」と言つて座布団を四・五枚重ねて、皆の前でお勤めを始めました。

同席した同行は、あまりのことに吉兵衛に知らせずにいましたが、数日たったある日、吉兵衛が、

「私はこのように座布団を敷かずにお勤めをするが、何ぞ申す者があるかしらん。何ぞ申す者があれば聞いてもらいたいことがある。御本山の七昼夜の報恩講で、あの寒い寒中に御法主様は、朝早うからお出ましになられて、五畳台の上に毛氈一枚敷いてない、そこに直にお座りなされて長い間のお勤め。どうも重いで」

と言ったそうです。報恩講の御法主を思いやつてのお勤めをしていました。

お寺とともに

デジタル社会

コロナ禍も三年目。

今やリモートやデジタル決済も定着しつつあります。決してそれを言い訳に出来ませんが、機械アレルギーの人間としては、パソコン・スマホはおろかテレビの録画もままなりません。

いままさらスマホの操作といつても、どうしていいのかわかりません。便利なスマホは私にとっては不便の塊です。

子供からは、

「せめて、検索や地図アプリくらいは覚えたい方がいいよ」

お店では、

「〇〇アプリお持ちですか」

と言われますが、やはり厄介なことに手が出ません。お店で若い人がスマホで電子決済しているのに、銀行でも有料で交換となった小銭を出している、迷惑なおばさんと化しています。

何事も手作業だった時代のご苦労に感謝しつつも、せめて人に迷惑をかけないようにアップデートしなくては、と考えを改めています。

コロナ禍中に修正会が勤まる

昨年に続き本堂に嚴重なコロナ対策

さる12月31日の大晦日深夜から1月1日2時まで、嚴重なコロナ対策を施す中、順慶寺にて年越し勤行と修正会が執り行われました。

令和2年初頭から続くコロナ禍もほぼ二年がたち、まだまだ収まる気配がありません。昨年は、アルファ株の流行で、多くの重症者がでる中の修正会で、嚴戒態勢を引きリモートで見えることもできるように準備しました。

令和四年の修正会は、デルタ株が収束しつつある中での開催となり、リモートで参加できる形はとらず、本堂でのリモート着席、換気、空気清浄機の導入などを施した上で、御本尊様前での焼香も実施しました。ただ、感染予防の観点から、お屠蘇の振る舞いは中止し、お汁粉の接待もするこ缶の配布に換えさせていたできました。

底冷えの中、開門から始まる

大晦日深夜、底冷えのする中、総代による山門の開門から始まり、大晦日午後11時45分から、参詣者による除夜の鐘の打ち始め、同時に本堂



御文を拝読する若院（修正会にて 岡川経康氏撮影）



↑除夜の鐘を待つ参詣者（修正会にて 岡川経康氏撮影） 鐘を衝く参詣者↑

「これからやってくる

新たな一日を迎える前に

今までの行いを反省し

今あることに感謝して

新たな自分に出遇っていこう」

についての話がありました。この言葉は、お土産にお菓子袋にはり付けて、参詣者にも渡しました。その後、責任役員・相木国男氏から挨拶がありました。

今年は、感染状態が収まっていたため、参詣者による焼香を実施しました。ただ、例年焼香される方が香炉の前で渋滞を作ることから、皆さんイスに腰掛けて、役員が案内をしてから焼香に詣る形としました。

精探院釋求道

1月9日寂 佐野 求(87)

泉田西組 佐野吉嗣様の父

釋尼喜恵

1月11日寂 酒井きく江(88)

名古屋市 酒井昭雄様の妻

瑞香院釋尼妙好

1月10日寂 池田好枝(93)

高畑組 池田憲信様の母

光耀院釋慎厚

1月12日寂 杉本慎三(86)

豊田市 目黒枝里花様の父

編集部短信

◆順慶寺コピー機入れ替えーさる1月27日、リース終了に伴い、コピー機の入替えを行った。今までの京セラ製のものからシャープ製のものに變更されたが、性能は5年前のものよりも格段にあがった。現在、コピー機は、護国寺と共有で使っている。

◆門徒戸数調査を実施ー来たる2月18日、定例責役総代会の席で、本山の中央門徒戸数調査委員会より出された、寺院所属の門徒戸数を確定させる。この戸数によって、本山から賦課金が決定される重要な内容となる。

◆本堂正面に寺報・同朋新聞を設置

順慶寺だより編集部では、1月28日より、本堂正面の賽銭箱の脇に、当月の寺報と同朋新聞を設置することとした。合わせて、寺報一面の「今月の釈尊の言葉」を門前、墓地前と本堂正面の賽銭箱脇に設置する。なお、寺報と同朋新聞のバックナンバーは今まで通り本堂北側に置いている。

編集雜記

この度、教化検討委員会にて若院が子供会の概容を発表しました。内容を見ると、花祭り、遠足、映画鑑賞、念珠作りなど、若院のがんばってやろうとするプランが呈示されていて、三十年前に若院の頃にやっていた子供おとめの会を思い出し、聞いていて頼もしさを感じました。若院には、無理して人を集めようとすると、心が折れることもあるから、興味をもって来てくれる人が数人でもいから、集まった子供たちには、笑顔で接するようにアドバイスしました。(住)

.....
新型コロナウイルスのオミクロン株の登場で大学での行動が、また制限され始めてきました。四年生最後、前回の大学では卒業旅行に行けなかったのですが、同朋大学の方では行きたかったのですが、厳しいかもしれません。一刻も早い終息を祈るばかりです。(若)



2月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	火		
2	水		
3	木	コロナ対策により、諸活動は自粛中	木-1
4	金	令和4年度より自粛解除し正常化する予定	
5	土		
6	日		
7	月		
8	火		
9	水	教化検討委員会(14:00、順慶寺本堂)	
10	木		木-2
11	金		
12	土		
13	日		
14	月		
15	火	観音堂報恩講(13:00、観音堂にて内勤め)	
16	水		
17	木	春季講座(所属寺院住職のみで開催)	木-3
18	金	定例責役総代会(19:00、順慶寺本堂)	
19	土		
20	日		
21	月		
22	火		
23	水		
24	木		木-4
25	金		
26	土		
27	日		
28	月	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺にて内勤め) 総代引き継ぎ会(15:00、順慶寺奥座敷)	

2月行事内容 詳細

2月9日(水)

午後2時 順慶寺本堂

オミクロン株が猛威をふるう最中ですが、二年間休みにしてきた教化活動を、今年度4月より再開するにあたって、どの活動から再開し、どのようにスタートするのが適当か検討をします。検討結果は、来たる総代会にて発表する予定です。

定例責役総代会

2月18日(金)

午後7時 順慶寺本堂

令和三年度後半の責役総代会です。この場では、令和三年度会計報告、令和四年度の行事に対する総代要求事項の決定がなされます。

総代引き継ぎ会

2月28日(月)

午後3時 順慶寺奥座敷

三カ年の総代任期終了に合わせて、護学会執行部の引き継ぎ会を開催します。この席で、次期役員候補を選定する予定です。

お知らせ

●富士松真宗教団・春季講座について
新型コロナウイルスによって開催を自粛している富士松真宗教団の講座ですが、春季講座は講座自体は開催する予定ですが、今回は富士松真宗教団の住職のみで内勤めで実施します。

●本堂に同朋新聞あります
昨年より順慶寺本堂にて同朋新聞を配布していましたが、1月より本山出版部より順慶寺あてに百部同朋新聞が届け

られていますので、順慶寺本堂にて本格的に同朋新聞の配布をしています。希望の方は、先着順となりますが、ご自由にお持ちください。

●観音堂報恩講について
来たる2月15日、泉田町観音堂にて、報恩講が勤められます。新型コロナウイルスによる自粛体制での内勤めですので、皆様には御参詣の案内はありません。

じゅんこのときめき歳時記 カリフラワー

みなさん、今年の冬は本当に寒いですが、お変わりありませんか。京都も本当に寒くて、震え上がっています。

冬になると、いつも食べていたのは、ブロッコリーやカリフラワーです。どちらも実家の愛知県は全国二番目の生産量ですので、よく食事に登場しました。カリフラワーはブロッコリーよりも生産量が五分の一くらいだそうで、あまり多く出回ることがないそうです。

カリフラワーにはカリウムが豊富に含まれているので、冬に塩分を取り過ぎたときには重宝します。また、

サラダ盛

まはりに飾り カリフラワー

石原栄子

